

平成 19 年度
大 学 情 報 化
職 員 研 修 会
開 催 要 項

A 日程：平成 19 年 10 月 17 日(水)～19 日(金)

B 日程：平成 19 年 11 月 7 日(水)～9 日(金)

会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）

<http://www.juce.jp/kenshu/shokuin2007/>

社団法人私立大学情報教育協会

研修運営委員会

開催趣旨

大学教育の成果である人材育成が社会から問われている。創造性、即戦力、基礎学力など人間力の低下が指摘され、学生の質保証が取り沙汰されるなど、教育全般に亘り改革が求められており、それには、理事会をはじめ教員・職員による人材育成の取り組みが不可欠であるが、とりわけ職員には、教育支援、人材育成支援の取り組みをコーディネート、マネジメントする能力が要請される。問題解決に向けた取り組みについて可能性を模索する中で業務を点検し、IT 活用による教育改善および人材育成支援、望ましい情報環境や運営組織の在り方など、大学改革に不可欠な課題について事例紹介、意見交流を通じて職員一人ひとりの資質の向上を目指すことを目的に本研修会を開催する。

1. 研修の進め方

本研修会は、研修の主旨を理解するための全体会（講演等、事例紹介）を行います。その後、テーマ別の分科会形式に移行します。分科会では、趣旨に沿ってサブテーマの内容を中心に討議を行い、問題解決のための方途を探ります。また、必要に応じて、参加者の中から、あるいは外部関係者を招いて先進的な取り組み事例の紹介を行います。

2. 参加資格

加盟大学教職員：当協会加盟大学・短期大学の職員および教員。

賛助会員：本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方。

3. 開催日程・会場

A日程：10月17日（水）午後0時30分開始～19日（金）正午解散

B日程：11月7日（水）午後0時30分開始～9日（金）正午解散

会場：浜名湖ロイヤルホテル

（〒431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1 TEL. 053-592-2222）

※ 本年度は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。

※ 原則としてツインルームとし、部屋割りは当方で割り当てます。

※ 最寄駅 JR 東海道本線「舞阪」駅（東海道新幹線「浜松」駅より 10 分）より送迎バスを用意しております。

4. 分科会

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解を深めます。

A日程：10月17日～19日

A-1	ICカードの戦略的活用
A-2	戦略的な大学 Web サイトの構築
A-3	学生基本情報の活用
A-4	戦略的な教育支援
A-5	個人情報漏洩対策
A-6	大学インフラとしての情報環境

B日程：11月7日～9日

B-1	主体的な学びを喚起させる学修支援システム
B-2	キャリア形成支援
B-3	ITを活用したコミュニケーション
B-4	大学情報システムの危機管理と対策
B-5	図書館員による学習支援

5. 事前レポートの提出

各分科会指定の様式にてレポートを事前提出することを参加の要件とします。レポートの内容は Web サイト(<http://www.juce.jp/kenshu/shokuin2007/>) をご覧頂きご確認ください。

- ※ 参加者レポートは討議の進め方、ミニ事例発表等の参考にさせていただきますので、申し込みが済みましたらできるだけお早めに提出ください。遅くとも 10 月 5 日の申込締切日までにはご提出願います。
- ※ 提出いただいた内容に基づき分科会内でミニ事例発表を依頼することがあります。運営委員会から依頼がありましたら、研修の一環とご理解いただき、是非お引き受けくださいますようお願いいたします。
- ※ 運営委員からの連絡等も本 Web サイトで行いますので、日ごろから更新内容をご確認いただきますようお願いいたします。
- ※ 何らかの事情により Web からのレポート提出ができない場合は事務局にご相談ください。

(TEL: 03-3261-2798)。

6. 参加費および納入方法

1 名 33,000 円 (税込)

参加者は、大学ごとにできるだけ一括して、A 日程は 10 月 16 日 (火) までに、B 日程は 11 月 6 日 (火) までに銀行振込により納入ください。

<振込先>

りそな銀行 市ヶ谷支店 普通預金口座

口座番号：0054409

名義人：(社)私情協シヤウシジヨウキョウ

- ※ 参加される日程の前の週の金曜日(A 日程の場合は 10 月 12 日、B 日程では 11 月 2 日)までにキャンセルのご連絡をいただいた場合は、全額参加費を返金します。それ以降のキャンセルは資料代と実費のご負担をお願いいたします。

ほかに宿泊費として 27,500 円(税込)(2 泊 5 食付)を 1 日目受付時に直接ホテルへお支払いください。

7. 参加申込方法および締切日

参加申込を大学ごとに一括して取りまとめ、両日程とも 10 月 5 日 (金) までに FAX もしくは本研修会 Web サイトからお申込み下さい。締切日以降でも定員に余裕があれば申し込みを受け付けますので、事務局にお問い合わせください。

研修会 Web サイト：<http://www.juce.jp/kenshu/shokuin2007/>

問い合わせ電話番号：03-3261-2798 (私情協事務局) ※FAX 番号は申込用紙に記載

研 修 プ ロ グ ラ ム

① 全 体 講 演：「大学改革に求められる職員の役割」

福田 謙之 氏 (金沢工業大学事務局長 常任理事)

金沢工業大学では、「教育付加価値日本一」を目指し、教職員一体となって大学改革に取り組んできた結果、社会からその教育力を高く評価されてきている。大学教育に対する社会からの期待の高まりや教育の質保証の面から「学生が大学を卒業して何ができるようになったか」ということをいち早く意識し、そのための教育改革として教育目標の明確化、それに対応するカリキュラム改革、シラバスの厳格化の推進など、人材育成の視点に立った改革を大学のガバナンスとして実践してきた。

本講演では、これらの改革の取り組み内容と実施に至った背景、および職員の果たしてきた役割やスタッフデベロップメントのあり方等についてご紹介いただき、職員が積極的に人材育成支援、教育支援に関わるためのあり方について基本的な考え方を共有することとしたい。

② 事例紹介

基調講演終了後、各分科会開始前に、大学としての教育支援のあり方を理解するために有用な事例紹介を行います。事例紹介は複数の発表から参加者の興味・関心に応じて二つ選択します（参加する分科会によっては、聴講が必須の発表もあります）。詳細は本研修会 Web サイトに随時更新します。聴講希望の申込みは事前に Web サイトを通じて行います。

- | | |
|---------------|---|
| A 日程共通：札幌学院大学 | 電子的な学生指導シート「はぐくみ」の活用 |
| 日本大学 | Google Apps を利用した学生用メールシステム NU-MailG について |
| 名古屋学院大学 | キャンパスコミュニケーションシステムによる学生サービス |
| A 日程のみ：明治大学 | 携帯電話を活用した授業改革 |
| B 日程のみ：日本福祉大学 | 学生の成長を支援する教育開発 |
- ※ 上記の他、各分科会内にて、必要に応じて参加者や外部関係者からの事例紹介を行うことがあります。

③ 分科会概要

A-1 ICカードの戦略的活用

【分科会のねらい】

これまで大学の施設の入室管理、図書の貸出管理、証明書発行などのために個人の特定を磁気カードで行ってきたが、ICカードの出現により、大量の個人情報扱うことが可能になったことから、カードの活用の範囲が個人の認証だけでなく、教育・学習支援の一つの手段として考えることが望まれるようになってきた。

本分科会では、ICカードを活用するメリット・デメリットを確認し、その上で学生一人ひとりの質の保証に寄与するようなICカードの戦略的な活用について検討する。

【メインテーマ】 教育・学習支援を目指したICカードの導入

【サブテーマ】

- ・磁気カードとICカードの相違点
- ・ICカードで何ができるか（メリット、デメリット）
（キャンパスライフ支援、施設・設備および情報資産のセキュリティ対策、教育・学習支援）
- ・ICカードに記載する情報の範囲と内容
- ・費用対効果

【参加対象】

ICカード導入を予定または検討している大学の職員、既にICカード導入していて課題対応に関心がある大学の職員ならびにテーマに関心がある他部門の職員

A-2 戦略的な大学 Web サイトの構築

【分科会のねらい】

大学は社会からの理解と支援を得るため、アカウントビリティとして教育・研究・社会貢献活動や財政状況、第三者評価結果等の情報開示が求められている。加えて大学からの情報発信は他大学と差別化を図り、社会に強くアピールできるものでなければならない。その広報手段として、大学 Web サイトは極めて重要であり、戦略的に構築することが望まれる。

本分科会では、各大学の Web 広報の現状、問題点について学生確保、教育改善、研究活性、大学経営の工夫・改善等の面から分析し、問題解決のための課題の確認、新しい提案の発掘とその可能性についての討議を通じて、戦略的な大学 Web 広報のあり方を模索する。

【メインテーマ】 大学における効果的な Web 広報と情報発信

【サブテーマ】

- ・戦略的な Web サイト設計・構築・運用
- ・情報発信のための推進組織体制
- ・Web サイトを通じた教育のオープン化

【対象者】 広報・企画部門及び大学情報を発信している関連部署

A-3 学生基本情報の活用

【分科会のねらい】

学生基本情報はあらゆる業務の核になるデータとして、すでに多くの大学で有効利用するためのシステムが構築されているが、教育・学習支援への活用に関しては教職員のコラボレーション、父母のニーズの変化、個人情報

報保護などの面から、対応すべき課題が山積している。これらの課題をクリアし、学生ポータル構築や学生カルテなど、学生基本情報を活用した新たな教育支援の実現を目指すための対策について可能性を検討する。

【メインテーマ】 学生基本情報を活用した教育支援のあり方

【サブテーマ】

- ・ 教職員の連携を充実するための情報システムのあり方
(ポータルサイト、学生カルテ、学習支援システム、ファカルティ・ディベロップメントへのフィードバック)
- ・ 学生による自己点検・評価システムとしてのポートフォリオの導入
(教育で修得した知識・技能・態度等の能力判定のデータベース化)

【対象者】 学生基本情報を利用または管理するすべての部門

A-4 戦略的な教育支援

【分科会のねらい】

大学教育の現場では、学生の基礎学力や学習意欲の低下はもとより「人間力」の低下が大きな問題となっている。学生を受け入れた以上、動機付けを高め、達成感を持たせる工夫を行うなど、人材育成の責任を果たさなければならない。他方、大学設置基準においてもファカルティ・ディベロップメントの義務化が急がれており、大学教育の質保証が喫緊の課題として指摘されている。

本分科会では、教育内容や方法の改善・向上を組織的に実現するための戦略的、実践的解決策を導き出すための視点を養う。

【メインテーマ】 ファカルティ・ディベロップメントと教育支援

【サブテーマ】

- ・ ファカルティ・ディベロップメント (FD) のあり方
- ・ FDを推進する組織体制
- ・ 教員と職員の連携・協働、職員が果たすべき役割
- ・ 実効性のある教育評価システム
- ・ ITを活用した教育支援 (コンテンツのアーカイブ化、e-Learning、ポートフォリオ)

【対象者】 部署による限定はしない

A-5 個人情報漏洩対策

【分科会のねらい】

各大学とも「個人情報保護規程」は整備しているが、P-D-C-A サイクルにもとづく運用が十分でない。また漏洩した場合に備え、「危機管理」の一環としたマニュアルの整備、体制の整備、漏えいの調査・報告、情報主体への通知方法など、大学が早急に取り組むべき必要がある。

個人情報が漏洩した場合、大学としての取り組むべき対応モデルを整理し、実現のための課題を検討する。

【メインテーマ】 危機管理体制の整備について

【サブテーマ】

- ・ 個人情報漏洩の危機対応マニュアル
- ・ 技術的なセキュリティ対策の導入・運用・評価
- ・ 教職員に対する意識の啓発 (研修会・説明会の実施、規程整備)
- ・ 被害を最小限に押さえるノウハウ

【対象者】 上記サブテーマに関心のある者であれば部署等は問わない

A-6 大学インフラとしての情報環境

【分科会のねらい】

補助金の活用により、大学の情報インフラは急速に整備されつつある。しかしながら、インフラの利用面からみると教員の多くからはまだITの可能性と限界について十分な理解が得られず、教育改善の手段としての活用は多くない。FDの義務化が間近に迫ってきている今日、教員一人ひとりが教育方法などの改善に取り組まなければならないが、ITを活用することで問題解決の可能性を高めることができる。

この分科会では、ITを活用した教員の研修、職員の教育支援研修をはじめ、大学の情報インフラ全般にわ

たり、総合的な情報化支援対策の企画・立案・実施・啓蒙など、情報センター部門が果たすべき役割について新たな方向性を探る。

【メインテーマ】教育インフラを支えるための情報センターの役割

【サブテーマ】

- ・ 教員のITリテラシーの研修、相談・助言（情報倫理、著作権問題等含む）
- ・ 教材の開発（教育支援室との連携）
- ・ 教育戦略としての最適な教育システムの提供（ポータルサイト、eラーニング、マルチメディア等々）
- ・ 情報セキュリティの確立
- ・ IT最新技術の紹介
- ・ 費用対効果の測定

【対象者】 情報センター等部門に従事する職員

B-1 主体的な学びを喚起させる学修支援システム

【分科会のねらい】

学生の学力低下や学習意欲の喪失が問題となっており、学生の動機付けを高め、主体的な学びを促すことが喫緊の課題となっている。単に卒業必要単位数の取得を目標とした履修方法では学生の学びを喚起することはできない。目的意識を持たない学生にいかん授業に積極的に参加させ、社会に貢献する人材を育成していくには、学生一人ひとりの将来設計、進路設計に応じた学びが実現できるよう、学生の多様なニーズに応じた学修支援が必要である。それには、学びの重要性やカリキュラムの意義をわかりやすく紹介するシラバスとそれを活用させるためのシステム作りが必要である。また、学生が履修状況の自己点検・評価を通して自ずと学修意欲を促進する、学生個別の履修支援が達成できるようなシステム作りと教職員による連携が求められる。

本分科会では、学生の自立的な学習を促すための履修支援・シラバスシステム等の充実や、学生に対する親密な相談・助言を可能にする支援体制、学修支援システムのあり方等について模索する。

【メインテーマ】主体的な学びを喚起させる仕組み作りについて

【サブテーマ】

- ・ 学修行動のプロセスを効果的に支援するシステム（履修計画策定・登録・学習活動・学習成果確認）
- ・ GPA制度の問題点（必修科目の減少）、副専攻による学習意欲向上の可能性
- ・ シラバスにおける到達目標の明示とカリキュラムとの連携（ポートフォリオの活用）
- ・ FD支援について

【対象者】 教務事務および学修支援システム開発・運用に携わる方

B-2 キャリア形成支援

【分科会のねらい】

大学が「人材育成」という社会的使命を果たすためには、キャリア形成支援部門が教務部門や教員組織とも連携しながら部門を越えた全学的な観点から機能しなければならない。例えば、社会人としての自律性、コミュニケーション能力、規範意識、協調性等の資質を保証するために学生一人ひとりの能力に応じた支援プログラムの実施が求められる。また、キャリア形成支援を通じて、教育の現状を分析し、問題点を明らかにした上で、カリキュラムの見直し、FDへのフィードバックなど、教育政策の改善につなげることも求められる。

本分科会では、肌理の細かい人材育成支援を目指すため、ITを活用した情報共有を通じて大学挙げての組織的な取り組み、支援内容などについて研究する。

【メインテーマ】キャリア形成を支援するための効果的・積極的な情報活用

【サブテーマ】

- ・ 進路観の醸成、キャリア形成を支援する情報システムとは
- ・ 学生の状態や到達度に応じた的確かつ有益な情報提供のあり方
- ・ 社会と連携したキャリア支援を実現するための情報ネットワークの利用
- ・ 多様な情報やナレッジの蓄積と組織的活用
- ・ 教員組織と事務組織との連携、キャリア関連科目等の実践と効果

【対象者】 就職・キャリア形成支援部門、学生支援部門、教務部門

B-3 ITを活用したコミュニケーション

【分科会のねらい】

学生一人ひとりに質の高い教育を保証するという大学としての使命に応えていくには、教職員一体となって知恵を出し合い、様々な対策を講じていくことが不可欠である。そのためには、従来の縦割り組織の弊害を打破し、大学構成員間で課題を共有し、問題解決に向けた密接な相互のコミュニケーションが求められている。

本分科会では、参加大学の各種のコミュニケーションのしくみについて、それらが本当に有効に活用され、効果を発揮しているか、また、その本質的な問題や理想的な形は何かなどについて討議し、ITを活用したコミュニケーションの限界も探ることとする。

【メインテーマ】 教育支援・学生生活支援のためのコミュニケーション

【サブテーマ】

- ・ コミュニケーションツールのメリット・デメリット（グループウェア、ポータルサイト、Blog、SNS等）
- ・ ステークホルダとのコミュニケーションのあり方（学生、教職員、保護者・卒業生・地域・企業）
- ・ 対象範囲拡大によるセキュリティ上の新たな問題点

【対象者】

情報の流通と共有について関心をお持ちの方、ITを活用したコミュニケーションのしくみを使って新しいサービスを実現したい方、学内インフラとしてこれらのシステムを整備する情報部門の方など幅広い部門の方を対象にする。

B-4 大学情報システムの危機管理と対策

【分科会のねらい】

大学の教育・研究、経営・管理に亘る全ての情報が、情報システムとして整備され、基盤環境として構築されているが、そのシステムが停止したり、侵入・破壊されたりすると、学内の活動はもとより、学外へ及ぼす影響は計り知れないものがある。情報システムに関するリスクを予測し、適切に対応していくことは、大学にとって大きな課題となっている。

そこで、本分科会では、情報システムの位置付け、役割を確認した上で、そこに潜むリスクについて共通理解を深め、取り組むべき対策について費用対効果の観点も含め望ましい姿を模索する。

【メインテーマ】 大学情報システムの危機管理と対策

【サブテーマ】

- ・ 情報システムに潜むリスク（ソフト、ハード、ネットワーク、人的リスク）
- ・ リスク回避のための情報システムの構築
- ・ 情報システムの安全対策（緊急時の対策含む）

【対象者】 情報センター等部門

B-5 図書館員による学習支援

【分科会のねらい】

主体的に学ぶことが要求される大学の授業において、学習意欲が低下する理由の一つに、自律学習のための基礎能力が十分でないことによる授業への不安がある。図書館における学習支援機能を考える上ではこのことを十分認識し、図書館の基本的な利用方法、文献・資料の探索方法や選択方法、ITを活用した情報収集、レポートの組立て方など、学習をするための基本的技術をガイドすることが必要になる。

本分科会では、初年次教育についての重要性を確認した上で、図書館における具体的な指導方法について考えるとともに、教員との連携による学生の図書館利用促進の戦略・戦術についても研究する。

【メインテーマ】 図書館が担うべき学習支援とは

【サブテーマ】

- ・ 図書館員が関わるべき学習スキルの支援内容（図書館の利用方法、文献資料の探索方法、資料の選び方、ITを活用した情報収集、論文・レポートの作成技術）
- ・ 教員と連携した図書館利用、読書の仕掛け作り
- ・ 教材・資料のアーカイブ化・開発

【対象者】 図書館関連部署、学習支援関連部署、学術情報基盤関連部署

参加者の声 ～ アンケートより一部抜粋 ～

18年度修会の参加者の声を掲載します。研修会の方向性、雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。

- 社会から見た大学に対する評価・期待度を考えた場合、「教育の質の保証」の大切さを痛感させられた。また、人材育成の大切さを力説されていたことが印象に残っています。改めて業務に対する姿勢を考えさせられました。(40代)
- 研修会の趣旨をさらに深く掘り下げた内容となっており、あっという間の一時間でした。現実の問題を突きつけられ、意識がガラリと変わった。教職員の意識改革及びIT活用授業がいかに重要なことであるかを実感させられました。(30代)
- 現在の私立大学の置かれている状況や、社会に求められている役割などについての話や、大学の経営者としての立場からのお話がとても興味深かったです。(30代)
- 初めての参加だったため、何を学べるかに興味を持っていたが、他大学の先進的事例を学べただけではなく、実際に自分で考える時間が与えられたこともあり、能動的に多くの事を学べたことに大変満足できました。(30代)
- 教育支援は自分の仕事でもある。情報化の流れについて先生をどのように支援するか悩んでいたが、ヒントを与えていただいた。他大学の若い職員の話聞き、負けられないとの気持ちになった。研修で学んだことを大学に持ち帰って一つでも取り組みたい。(50代)
- 各大学の事例や具体的な話が聞け、有意義な意見交換の場となった。「学修支援システム」という捉えどころのない漠然としたものが、より具体的にどのようなものが明確になった。まずは学生の目線に立ち、自主性を重んじた上でどのように道筋を示してあげるか、今後の自分のテーマにしたい。(20代)
- 導入事例を聞くことができ、とても有意義でした。先進的に導入するばかりでなく、ガイドラインの作成など、教員・職員への意識改革にも力を入れておられると感じました。また、導入のメリットだけでなく、デメリットも紹介していただいたので、自学で導入の際の参考になると思いました。(50代)

タイムテーブル A日程：10月17日（水）～19日（金）
 B日程：11月7日（水）～9日（金） 会場：浜名湖ロイヤルホテル

1日目	2日目	3日目
	9:00 分科会討議／事例研究	9:00 (引き続き分科会)
	休憩(適宜)	休憩(適宜)
	(引き続き分科会)	(引き続き分科会) 討議まとめ
11:30 受付		アンケート記入
12:30 開会式 委員長趣旨説明 講演 セミナー 委員紹介 等	12:00 昼食	12:00 順次解散
休憩	13:00 (引き続き分科会)	
15:00 事務連絡 移動・休憩	14:50 休憩(適宜)	
15:40 事例紹介① 発表40分+質疑10分	(引き続き分科会)	
16:30 休憩 事例紹介② 発表40分+質疑10分	17:00 休憩	
17:30 休憩・チェックイン	18:00 夕食	
18:30 懇親会		
20:00 フリーディスカッション		

※都合により変更することがあります。

平成19年度大学情報化職員研修会 参加申込書

大学名 _____

事務連絡者氏名 _____

所属及び役職名 _____

所在地:(〒 -) _____

TEL: _____ (内) _____

FAX: _____

E-mail: _____

参加者氏名	所属及び役職名	参加希望 分科会	年齢	性別	喫煙 ○で囲んでください	勤務 年数	現職在 職年数	★参加 動機	※参加 目的	基礎講習会 参加経験	職員研修会 参加経験	E-mailアドレス
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	
		—	歳	男・女	有・無	年	年			あり・なし	回	

★参加の動機について以下の中から選んで記号を記入してください。「4. その他」の時は枠の中に短く記入してください。

1. 自主的 2. 上司からの指示 3. 順番 4. その他

※参加目的について以下の中から選んで数字を箱の中に記入してください。「5. その他」の時は枠の中に短く記入してください。

1. 自己啓発 2. 他大学の状況調査 3. 一般教養 4. スキルアップ 5. その他

※ 事例紹介の選択は、Web上から行っていただきます。 <http://www.juce.jp/kenshu/shokuin2007/>

連絡先 : 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-14 No.1山崎ビル 4F 社団法人私立大学情報教育協会 事務局
TEL:03-3261-2798 FAX:03-3261-5473